

夢 塾 だ よ り

～ 長いトンネルの3週間 ～

(第50号) 令和3年9月27日



コロナ禍の中では『熱』を出すと一大事になること、身をもって体験しました。9月4日土曜日、朝から倦怠感がありました。午後になり熱を測ると37.3度。その日のうちにかかりつけの医院に行きました。『熱がある患者さんは車に乗ったまま電話してください』とあり、電話すると先

生は、「こちらではPCR検査はできません。しばらく自宅で様子を見てください。」とのことでした。ちょうど次の日、娘が「抗体検査キット」を買ってきてくれました。「陰性」とでてほっとしましたが、一向に熱は下がりません。三日目も同じ検査をしましたが「陰性」。コロナではないと確信しましたが、PCR検査をやっているTクリニックへ行きました。翌日病院からの電話で{PCR陰性}熱がさっと引きました。すぐに発熱外来をやっている違う病院にいきました。すでに発熱から4日が経過しています。車の中にいる私を先生は外から診てくれました。私にワクチンを2度接種した先生です。「左の扁桃腺が真っつかつか。扁桃炎です。」1週間分の薬を飲み終わるも一向に良くなりません。また病院へ行き、問診の前に気になる症状を書きだした紙をみせました。それを見た先生は「前立腺炎」を併発と診断しました。また1週間分のちがう薬を処方されました。少しは改善の様子は見られましたが、まだまだ回復には至りません。その病になると、夜間頻尿で一時間も待たずに起こされます。睡眠障害になり体のいたるところ微熱で倦怠感に侵された状態になります。病気を治すには1に「睡眠」2に「薬」だと思いました。

第5波がようやく収束の兆しを見せ、今月末には緊急事態宣言が解除になりそうです。本当に恐ろしいウイルスです。ただその裏には、コロナではない別の病気の患者さんにとっても病気の発見や治癒を遅らせて、重篤化させてしまう傾向を呈しているのが「コロナ禍」の現状です。

医療従事者の方は本当に毎日毎日、重たい気持ちで職場に向かっていることでしょう。ですが、どうぞ人々の明るい未来を背負っているというプライドをお捨てにならないでください。あなたのおかげで社会が人間が成り立っていますから。

夢塾の親御さんにはお医者さん、看護師さん、介護福祉士さん、ケアマネジャーさん、保育士さん・・・がいます。皆さま、命がけで人間社会をよくしようと奮闘されています。私も皆様に少しでも近づけるよう健康を取り戻して、精進してまいります。健康を失ってはじめてわかる健康の尊さ。改めて気づかされました。